

技術士の資格以外に得られたこと



取得した資格：技術士（建設部門：港湾及び空港）
資格取得年度：令和元年度

つじもと ようたく*
辻本 陽 琢*

受験の動機・経緯

私は元々、仕事を通して得た（と思われる）知識や経験が本当に自分の身に付いたかどうか、資格の受験などを通して確認したいという思いがありました。技術士もそのうちの1つで、仕事で経験を積み、いずれ受験資格が得られたら受験しようかなあ…くらいにぼんやりと考えていました。

一次試験については通っていた大学がたまたま「修士1年生は全員技術士一次試験を受験する」という暗黙のルール？があり、その流れで受験した際、運良く合格していたため、社会人になってからは二次試験のみを念頭に置く形となりました。

当時、私はこれからのキャリアが港湾・空港関係になっていく見通しであったことから、技術士を取得するのであれば港湾・空港分野でと考えていました。しかし、配属は河川→地方創生→物流→防災→…と、なかなか港湾のポストには巡り合えず、受験のチャンスが見出せない状況が続きました。

そのような中、内閣府沖縄総合事務局に異動し、港湾関係の業務に従事する機会を頂いたため、「港湾関係の業務でかつ現場に近い職場の今しか技術士を取得するチャンスは無い！」と思い、勉強をスタートすることにしました。

筆記試験における勉強の進め方

勉強の方法は過去問を中心に行いました。まず、インターネット等で販売されている、過去の合格者の回答を10年分くらい購入しました。それを回答にしながら過去問を解いていったのですが、勉強開始直後はそもそも問題がどういう回答を求めているのか、問題の意味すら理解できず、本当に1文字も回答を書くことができませんでした。そこで勉強開始当初は問題文を見て、即、回答を読むという作業を繰り返しました。その作業の中で問題の意図を把握したり、回答に知らない用語が出てきたら意味や背景を調べるなどを行いました。これを過去問10年分、2周、3周と繰り返していると、徐々に問題の意図が掴めるようになり、次第に購入した回答も別の観点からの論理展開や別の文章の書き方がイメージできるようになってきました。このような過去問を解く作業を10周とまではいきませんが、それに近い回数を繰り返し行いました。

また、技術士の試験内容は幅広く、多岐にわたります。設計業務にほとんど従事したことが無かった私にとって、港湾の設計に関する問題は何度解いても理解することができず、最終的に独学で勉強することは困難と判断し、設計以外の分野に絞って勉強を進めることにしました。過去問を解くことはひと

*国土交通省 近畿地方整備局 港湾空港部 計画企画官

つのやり方として、そのようなメリハリを付けることにも役立つかと思います。

その他にもインターネットで技術士受験を支援するサイトには二次試験で問われやすい予想テーマが公開されています。それらを参考にしながら、その年のトレンド等も睨みつつ、自分自身で予想問題・模範解答を作成するなどの対策を行いました。

筆記試験における勉強の進め方以外の留意点

筆記試験は回答の内容はもちろんですが、採点者の方の目線に立った「読みやすい文章」を作成することも必要です。だらだらと文章を書き続けると読みづらくなってしまいますので、例えば回答には小見出しを付ける、段落・改行・1行空け・箇条書きを駆使する、重要なポイントには下線を引くなどの工夫は必須だと思います。

また、回答文をPCで打ちながら勉強されている方もいらっしゃると思います。それも、試験が近付いてきたら手書きに変更することをお勧めします。同量の文章でも手書きはPCより遥かに時間がかかります。試験当日は5時間30分もの間、文字を書き続けなければならず、終盤は手に力が入らなくなるくらい疲れます。試験前は試験の時と同じような条件で勉強をされることが良いかと思います。

口頭試験における傾向と対策

口頭試験は受験申込みをした際に提出した実務経験証明書から質問をされますから、まずはそれを分かりやすく端的に、かつ自分の言葉で説明できるように練習する必要があります。特に私の場合は港湾関係の業務に従事した経験がほとんど無いにも関わらず、港湾・空港分野で受験していたため、その点をどのように説明するか非常に頭を悩ませました。

技術士に限らず口頭試験対策は実践の繰り返し

鉄則ですから、私は当時の同じ職場にいらっしゃった、技術士をお持ちの方に模擬口頭試験を行って頂き、説明が矛盾しているところへのご指摘やより良い言い回しなどをご助言頂きました。このお二人には口頭試験に限らず、筆記試験の時から何度も励ましやご助言を頂きました。この支えて下さったお二人のおかげで、合格に至ったと言っても過言ではありません。その他、インターネットで調べれば模擬口頭試験を受けられるサイトがありますので、そちらにも申し込むなど、色々な方から様々な切り口で指導を受ける機会を作るようにしました。

受験者へのアドバイス、注意点、励まし等

社会人が仕事と並行して試験勉強に取り組むことは、特に時間の面で非常に苦勞すると思います。これを解決するには、隙間時間を積み重ねるしかありません。「5分10分程度だと何もできない！」と思いがちですが、テキストを取り出して2、3分間眺めるだけでも意外と記憶に残っているものです。隙間時間の勉強は意外と侮れないと思います。

また技術士を取得したからといって、急に知識が増えるわけでも、頭脳明晰になるわけでもありません。ただ、私は技術士を取得された多くの優秀な先輩技術者の方々がいらっしゃる中で、少なくとも同じ資格を頂いた以上、それに恥じぬよう一層研鑽に励もうという技術者としての責任感が生まれました。これがタイトルにもさせて頂いた、「資格以外に得られたこと」です。技術士を取得するための勉強を通して得た知識はもちろんですが、私にとっては責任感を得られたことが最も意味のあったことかと思っています。

現在、受験を考えておられる方、試験勉強中で苦しい状況の方へ、私の拙い経験談が少しでも参考になりましたら幸いです。

【著者紹介】 辻本 陽琢（つじもと ようたく）

平成22年国土交通省入省。内閣府政策統括官（防災計画担当）付参事官補佐、内閣府沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課長、国土交通省鉄道局安全監理官付事故対策官等を経て、令和4年4月より現職。